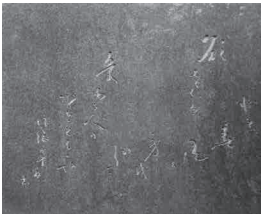
佐佐木信綱歌碑　凌寒荘

【主碑】

願はくはわれ春風に身をなして憂ある人の門をとはばや

【副碑】(抄)

竹柏園佐佐木信綱先生は
昭和十九年よりこの山荘
に住み昭和三十八年十二
月二日壽九十二にしてこ
こに世を終へられたり
その輝ける生涯を追慕し
てこの碑を建つ歌は
明治三十二年第一回竹柏
會の折の作にして九十歳
の筆なり
昭和三十九年十二月二日
竹　柏　會
書　沖　六鵬
設計　古橋榮三



碑は佐佐木信綱終焉の地、静岡県熱海市西山の凌寒荘の門に向かって右側の垣根に、白御影石の基板に黒御影石の信綱九十歳時の墨書を刻した主碑、副碑が嵌め込まれている。鳥居の傍らに信綱歌碑のある來宮神社より十国峠に至る紫川沿いの街道からよく見える。建碑日は信綱の一年祭に当たる。設計者古橋榮三は、信綱の四女富士子の長女洋子（九十二歳で健在）の夫で建築家。碑の設計図が遺っているという。

歌は、明治三十二年四月六日、日本橋倶楽部で開催された第一回竹柏会「心の花」の大会に、題詠「春風」によって詠まれた歌で、作歌時二十八歳、信綱の代表歌の一つである。

信綱が東京市本郷区西片町の邸宅から熱海市西山の凌寒荘に移住したのは、昭和十九年十二月だった。信綱は病後の養生と空襲の危険とに鑑み、温暖な熱海に妻雪子とともに居を移したのだ。「凌寒荘」は王安石の詩「梅花」の「牆角数枝梅　凌寒独自開　遙知不是雪　為有暗香来」より、妻雪子の父藤島正健の従兄弟で、熱海市伊豆山の晩晴草堂に住んでいた徳富蘇峰が名付けた。

現在、凌寒荘は熱海市の史跡「佐佐木信綱旧居」として整備され、毎週土、日曜日に無料公開されている。信綱逝去後すでに五十年以上経っているが、建物も庭もよく手入れされていて、在りし日の佐佐木信綱の人と仕事を偲ぶことができる。建物内には信綱の写真や著書が飾られ、廊下に立てば和田山が見える。庭には竹柏会ゆかりの梛、凌寒荘の名の由来の老梅、信綱が好んだ石楠花、志賀直哉から贈られた衝羽根空木、石川一成が植えた麦門冬などを見ることができる。

一時期近隣に谷崎潤一郎松子夫妻、吉川英治、「心の花」の歌人渡辺留子が住み、賑やかな交流が持たれたのだった。

佐佐木信綱揮毫碑　柿本人麻呂（万葉集）

【碑表】

柿本朝臣人麻呂

ひむかしの野にかぎろひの立つ見えてかへりみすれは月かた
ふきぬ

源　信綱　謹書

【碑背】

第四十二代文武天皇……

昭和十五年十一月

京都帝國大學名譽教授文學博士　新村出撰并書

歌は万葉集巻一の「軽皇子の安騎の野に宿りましし時、柿本朝臣人麻呂の作る歌」長歌一首短歌四首の中の四八番歌。原文は「東野炎立所見而反見為者月西渡」で、この歌を碑のように初めて訓

んだのは、江戸時代の国学者賀茂真淵であった。信綱の孫の万葉学者・歌人の佐佐木幸綱は「あまりに見事な訓みなので今はもっぱらこれが通用している」と述べる。

柿本人麻呂は、万葉集第一期を代表する宮廷歌人。天武、持統、文武朝の官人。「修辞の豊饒、格調の雄大、気魄の宏壮、集中第一の歌人」と信綱は『萬葉集事典』に記している。

碑は自然石で、歌は佐佐木信綱の揮毫、筆勢が強く伸び伸びしており、署名は源信綱。撰文と書は新村出であるが、長年の苔で覆われていてほとんど読めない。高さは約二一〇センチ、幅九〇センチ、厚さ二〇センチで、幅一三五センチ、奥行き九〇センチの台石の上に据えられている。

設置場所は奈良県宇陀市大宇陀迫間のかぎろひの丘万葉公園の広々とした小高い丘の上、南に向いて建っている。近鉄線の榛原駅からバスで二〇分、終点の大宇陀で降り、一五分ほど歩く。山裾から落ち葉が積み枯れ枝が散らばる山道を登って行くと開けた草地が広がり、手前に四阿がある。碑の後背地は疎林である。このあたりは古昔「安騎野」といわれた狩猟地であった。毎年旧暦一一月一七日に「かぎろひを観る会」が催され大勢の人で賑わうと幸綱先生はおっしゃった。「佐佐木信綱万葉歌碑」は宇陀市指定文化財になっている。

歌碑探訪の日は台風6号の影響で荒天の予報があり、鉄道沿線では激しい風雨も見られたが、かぎろひの丘万葉公園は小雨で、碑の撮影時にはさいわい一瞬日が射したのであった。

佐佐木信綱揮毫碑　大伴家持（万葉集）

【碑表】

越中守大伴宿彌家持作歌

雄神河くれなゐにほふ小女等し葦附とると瀬に立たすらし

紀元二千六百年十一月　文學博士　佐佐木信綱書

【碑背】

昭和十五年十一月建之　中田葦附保存会

碑は富山県高岡市葦附あしつき公園にある。佐佐木信綱著『作歌八十二年』（一九五九年）に言及されているように、もとは高岡市中田町の新開橋畔に昭和十五年十一月に建立された碑で、碑背の文字がそれを示している。しかし、昭和四十九年八月に富山県が新たに「あしつき公園」を整備し、開園するにあたり移設されたのである。古い碑が活かされて、広いあしつき公園の中央に堂々と建立されている。

歌は万葉集巻十七―四〇二一の歌で、表記は左の通り。

礪波郡雄神河邊作歌一首

乎加未河伯　久礼奈為尓保布　乎等賣良之　葦附（水松之類）等流登湍尓多々須良之

現代語訳。雄神川に紅の色が映って美しい、少女たちが葦附を採るといって浅瀬に立っているらしい。

雄神川は富山県の庄川。飛騨国の白川地方に発し北流。雄神村を通ったので、雄神川の名がある。もと射水川に合流していたが、今は別れて海に入る。

万葉集の原表記からわかるが、葦附には「水松之類」という註が歌中にもともとつけられている。葦附は淡水に生え、葦や石に付着している海苔のような水生植物で食用にする。あしつきのりともいう。現在も庄川付近で採れる。あしつき公園の近くには「天然記念物葦附繁殖地」の石碑も建っている。

作者は大伴家持（七一七?～七八五）。旅人の子。中央・地方諸官を歴任した官人。万葉集後期を代表する歌人で、万葉集中もっとも作品が多く、長歌、短歌、旋頭歌合計四七二首ある。万葉集の編纂に大きく関与したらしい。七四六年七月からの越中守時代の五年間は、望郷の念を底に秘めつつ、異境の風物に接し、国守としての自覚に立ち、下僚たちとの親密な交遊を通し、精神的にもっとも充実した多作の時代であった。

国庁跡近くに建つ高岡市万葉歴史館は、常設展・企画展、万葉植物庭園、豊富な文献資料を有する万葉集研究施設である。

仙覚律師遺蹟碑

仙覚律師遺蹟

碑は埼玉県比企郡小川町中城跡の鬱蒼とした杉林の中にあり、高さ四メートル、幅一・二メートル、厚さ二〇センチの見上げるばかりの立派な碑である。

【碑表】

日本弘道會會長従二位勲二等伯爵徳川達孝篆額

東京帝國大學文學部講師 文學博士佐佐木信綱撰文

仙覚律師は、中世に於ける萬葉學再興の祖なり。建仁三年東國に生る。年十三、始めて萬葉集の研究に志し、寛元四年、將軍藤原頼經の命を受けて、幾多の舊本を參照し、初度の校定本を作り、古來いまだ讀み得ざりし百五十二首の歌に、新に訓點を加へたりき。建長五年、其の新點の歌を後嵯峨上皇に奉りしに、叡感斜ならず、御製一首を賜はりぬ。弘長元年より更に校勘に努め、文永二年再度の校定本を作れり。また別に萬葉集註釋の筆を起し、博引旁證至らざるなく、同六年四月、その大著を完成せり。時に齢六十七なりき。この地は武藏國比企郡北方麻師宇郷に當り、實にその著の稿を脱せし處なりといふ。

今茲昭和三年は文永六年より計へて、六百六十年なれば、郷人相謀りて、記念の碑を建つ。嗚呼、律師の業績は、かの集と共に萬葉に朽ちず、その光永く學界を照さむ。

昭和三年四月

前國學院大學講師岡山高蔭書

曽根多志三刻

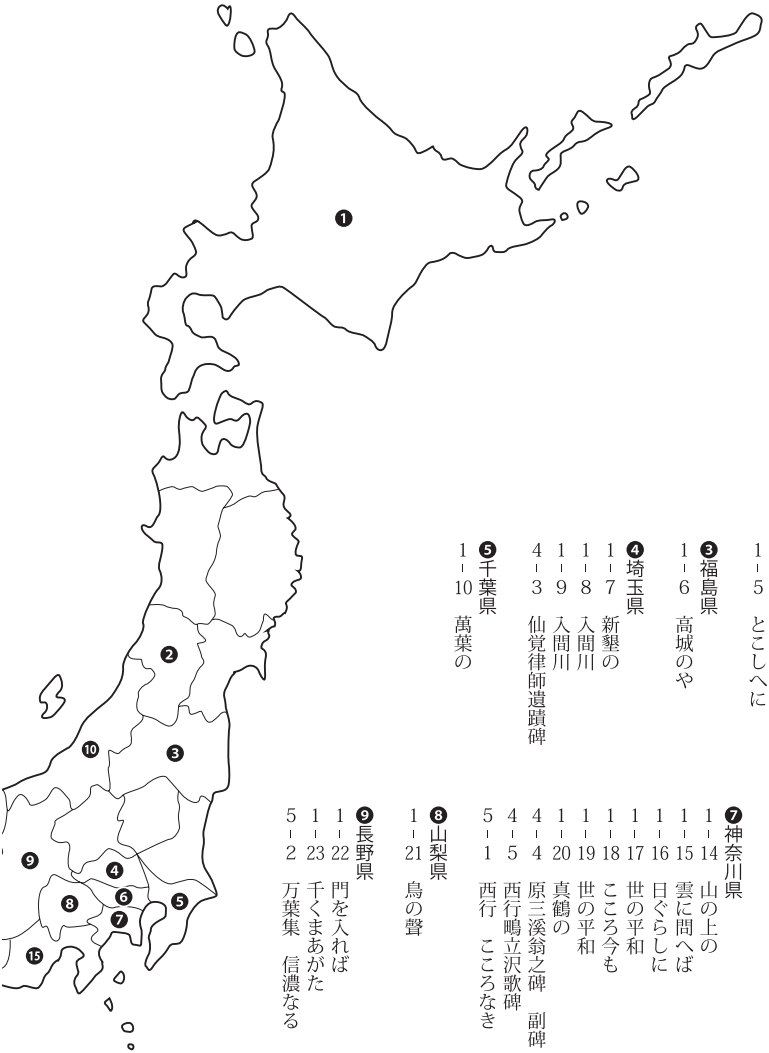
【碑背】

新墾の道をひらきし功とはに麻師宇の郷の名はとこしへに

後學　源　信綱

仙覺律師遺蹟保存会

佐佐木信綱碑の地図



❶北海道
1－1　我が上を

❷山形県
1－2　ありし世に
1－3　山のうへに
1－4　国のため
1－5　とこしへに

❸福島県
1－6　高城のや

❹埼玉県
1－7　新墾の
1－8　入間川
1－9　入間川
4－3　仙覚律師遺蹟碑

❺千葉県
1－10　萬葉の

❻東京都
1－11　紫の
　　そのかみの
1－12　くれ竹の
1－13　天地日月の
4－1　和気清麻呂公銅像　副碑
4－2　戸田茂睡歌碑　副碑

❼神奈川県
1－14　山の上の
1－15　雲に問へば
1－16　日ぐらしに
1－17　世の平和
1－18　こころ今も
1－19　世の平和
1－20　真鶴の
4－4　原三溪翁之碑　副碑
4－5　西行鳴立沢歌碑
5－1　西行　こころなき

❽山梨県
1－21　鳥の聲

❾長野県
1－22　門を入れば
1－23　千くまあがた
5－2　万葉集　信濃なる

❿新潟県
2－1　卯の花の

⓫富山県
1－24　立山の
5－3　大伴家持　あゆの風
5－4　大伴家持　雄神河
5－5　万葉集　信濃なる
5－6　大伴家持　玉くしげ

⓬石川県
1－25　うた人の
1－26　国の司
　　いにしへの

⓭福井県
3－1　幼くして
5－7　万葉集　若狭なる

⓮岐阜県
1－27　すすみゆく

⓯静岡県
1－28　願はくは
1－29　来の宮は
1－30　海青く
1－31　これの世は
1－32　富士の雪に
1－33　いく年月
1－34　本山の
　　この本の
1－35　登呂をとめ
1－36　天の宮
1－37　遠つあふみ
4－6　戸田茂睡生誕之地碑

⑯愛知県
1－38 歌人の
1－39 春ここに
5－8 万葉集 信濃なる
5－9 万葉集 あぢのすむ

⑰三重県
1－40 小向のや
1－41 くちせぬ名を
1－42 時じくの
1－43 をふけのや
1－44 白雲は
1－45 夏知らぬ
1－46 春ここに
1－47 これのふぐら
1－48 目とづれば
1－49 ふるさとの
1－50 月ごとの
1－51 名におへる
1－52 蟬時雨
1－53 まりが野に
1－54 海ほがらに
1－55 ますらをの
1－56 まつ千もと
1－57 人の世に
2－2 丘の上の
2－3 夏は来ぬ
2－4 卯の花の
5－10 卯の花の
5－11 聖武天皇 いもに恋ひ
当麻真人麿妻 吾せこは

⑱京都府
1－57 よろづはの
1－58 わが道に

⑲大阪府
1－59 これのみ山
1－60 世の為に
5－12 西行 仏には

⑳兵庫県
2－5 うの花の
2－6 うの花の

㉑奈良県
1－61 瀬の音高く
1－62 逝く秋の
1－63 久方の
かく山の
3－2 梅溪は
5－13 柿本人麻呂 東の
山部赤人 三諸の
5－14 山部赤人 明日香川

㉒和歌山県
5－15 有間皇子 家にあれば

㉓鳥取県
1－64 ふる雪の

㉔岡山県
1－65 防人ら
4－7 木下利玄歌碑

㉕山口県
2－7 水帥営の会見

㉖愛媛県
1－66 別子のや
1－67 別子のや
宗像の
1－68 萬葉の

㉗高知県
1－69 南の海
かしこきや
百年の

㉘福岡県
1－70 逝く秋の
4－8 大隈言道旧宅之碑

㉙大分県
1－71 湯ふねの湯

海外
1－72 ＊神國の
1－73 ＊一日の業を

※＊はすでに失われた碑